

事務事業 No./名称	□サービス部門 健福-21 高齢者活動運営事業 □支援部門						
主管課	高齢者いきいき課	関連課					
分野名	健康福祉						
目標 (目標値)	長年にわたり社会に貢献した高齢者に対して敬愛の意と長寿を祝し、また公的年金を受給できない外国籍市民に給付金を支給することにより福祉の向上を図るため。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
事業の対象者数	117人	107人	102人				
運営資源状況	決算値(千円)	2,734	2,989	3,001			
	(国・県)	460	600	756			
	(負担金等)		0	0			
	(一般財源)	2,274	2,389	2,245			
	人員配置数	0.7	0.7	0.7			
	人件費(千円)	5,778	6,391	6,228			
	協働のパートナー	無	無	無			
事務事業運営経費	総事業費(千円)	8,512	9,380	9,229			
	市民1人当りの経費(円)	48	53	52			
	対象者1人当りの経費(円)	72,752	87,664	90,480			
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
敬老祝い事業実績	○	目標値	2,257人	146人	158人	144人	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	2,060人	96人	104人	112人	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
高齢者活動運営事業	1,814千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E		
	事業の概要	長寿のお祝いとして100歳以上の高齢者に対し、祝品を贈呈する。			
外国籍高齢者福祉給付金支給事業	920千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E		
	事業の概要	無年金の外国籍高齢者に対して福祉給付金を支給する。			
		①効率性 □ ②妥当性 □ ③有効性 □ ④公平性 □	⇒ □A □B □C □D □E		
		①効率性 □ ②妥当性 □ ③有効性 □ ④公平性 □	⇒ □A □B □C □D □E		
		①効率性 □ ②妥当性 □ ③有効性 □ ④公平性 □	⇒ □A □B □C □D □E		

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	平成23年度の敬老祝品を鎌倉彫の箸とスプーンの組み合わせとしたが、贈呈後のアンケートでは、100歳以上の高齢者には使いにくいとの声があり、満足してもらえる品物をよく吟味する必要がある。		
課題解決のための取組	平成24年度の敬老祝品は鎌倉彫の小盆としたところ、アンケート結果では、概ね好評であった。	取組の結果	■解決 □未解決
未解決の課題	国も敬老祝品等贈呈事業を実施しているが、市の事業と対象年齢の捉え方が異なり、基準を合わせる事が課題である。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
		②妥当性 ○			課長等名
		③有効性 ○		↓	
		④公平性 ○		A	高齢者いきいき課担当課長 小宮 純

